

平成 30 年度の年間の活動

1. 年間行事

1) 定例行事

毎月 5 日に定例会議を開催しています。協議会の幹事が集まり、年間行事の進捗、手伝いの日程調整等について話し合いを行っています。また、定例会議では空き家の状況についても随時話し合います。5 月には総会、1 月には新年会と全会員が集まる会議が開かれます。

◆年間行事◆

2 月～3 月 ひなまつり

4 月～5 月 さくらまつり、端午の節句まつり、協議会の総会、おいでゃんせ祭り

6 月 ほたる祭り

7 月 七夕飾り、

夏休みこども寺子屋事業

8 月 お盆にキャンドルナイト、地区の夏祭りに協力

9 月 お月見会

10 月 おいでゃんせ祭り

11 月 地区の神社の祭りに協力

12 月 年末から正月にかけてキャンドルナイト（ライトアップ）

1 月 協議会の新年会

2. 年間行事から発展した活動

1) ライトアップ

毎年 12 月の年末から正月にかけて初詣の方へのおもてなしのために、神社の参道や街道沿いにライトアップしてきました。昨年度からは、石州街道出口地区に隣接する商店街を中心に行われる「府中まちなかにぎわいライトアップ」に協力し、街道沿いをライトアップしました。

2) おいでゃんせ祭りへの大学生の参加

昨年度に続き、県立広島大学 1 年生の学生 21 名が「地域の理解」という授業の一環で、石州街道出口地区を訪れ、おいでゃんせ祭りに参加しました。学生たちは、焼きそばの販売やコーヒーの接待など祭りの手伝いを行なってくれました。その後、住民数名と意見交換を行いました。学生らは地区や協議会の活動からまちづくりを始めるために、そして持続していくために、必要な要素 5 つについて円グラフを使って発表してくれました。また、石州街道の印象についても述べてくれました。良いところとしては、住民に魅力があること、町並みにも魅力があること、町並み以外の自然や風景にも魅力があ

ること、インスタ映えする場所があるなど人をひきつける要素が多くあることをあげてくれました。一方で、改善すべき点としては、道が狭いなどの交通の問題、店がないなど生活者の問題、若者を呼び込む仕掛けが足りないこと、情報発信の不足が挙げられた。活動する自分たちでは気遣いがない魅力があることが分かりました。情報発信の方法などは今後検討していきたいです。

学生らが授業内で実施した自己評価の調査結果によると、祭りへの参加前後で、「多様な年齢、疾患、障害のある人と話すようにしている」や「困難な状況において創造的な解決策を探るようにしている」について自己評価が高まっていました。

【感想】

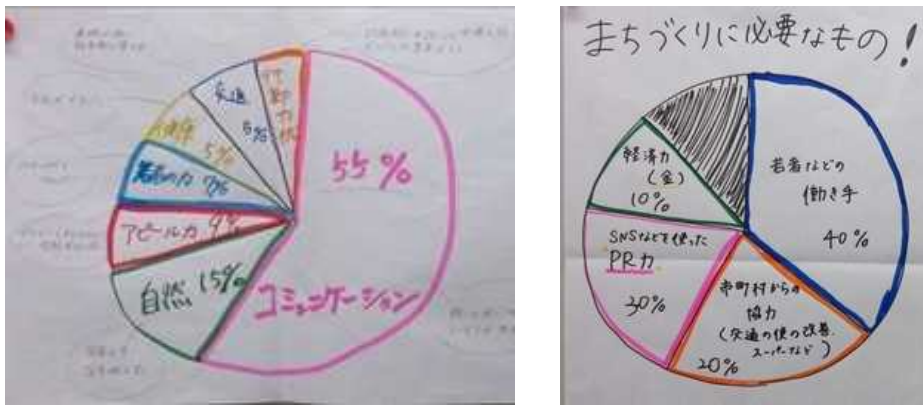
- 皆さんとの活動を通して、人々との交流の大切さ、お互いを思いやる気持ちが地域活性化には必要なのではないかと感じました。私たちの接客やふれあいを得て、私たち自身が人々の協力することの必要性を実感できました。
- 地域の人と実際にあって話したことで、出口地区についてもっと知りたいと思うことができた。この地域には様々な伝統と新しい発展が入り混じり、過疎地域の将来性を感じることができた。自分にとって、地域に貢献するための目のつけ方や道すじの例を1つ得ることができた。

などの感想がありました。こうしたことから、祭りへの参加は大学生にとって貴重な学びの機会となっていることがわかりました。住民や来訪者からの評判は大変好評で、「華やいだ」「いつもより元気がもらえる」「助かった」などの声が上がってきました。

祭りの運営において高齢化や人材不足が課題であるため、今後はこうした学生のボランティアを募集すると同時に、学びのプログラムを提供していく仕組み(大学生とのWIN & WINの関係づくり)も検討していきたいです。



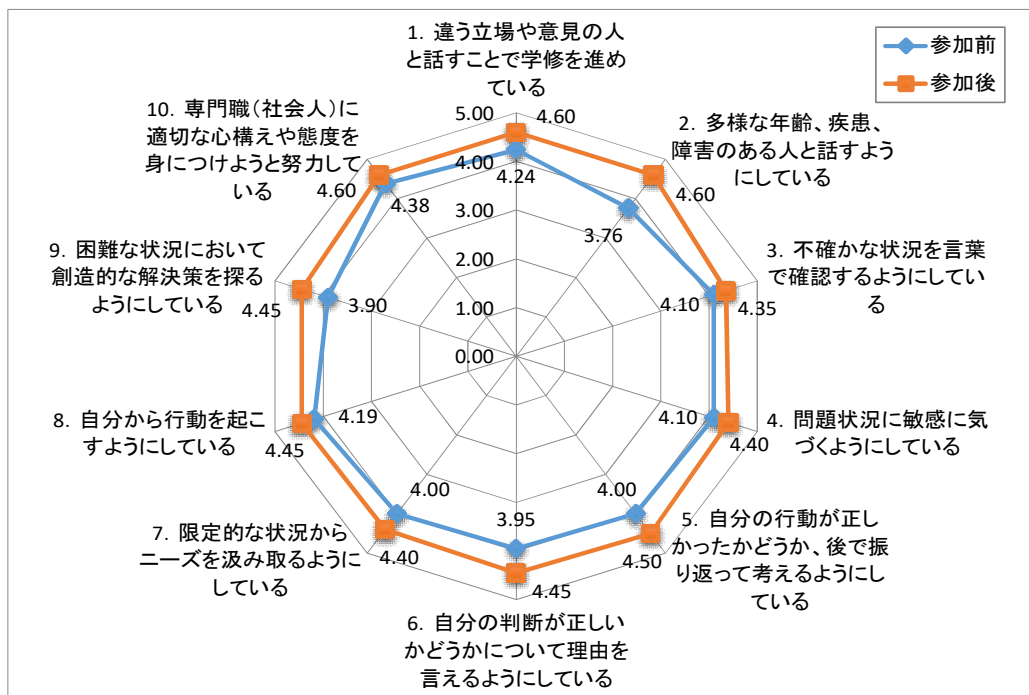
祭りの手伝い(上)、協議会と意見交換(下)



学生の発表グラフ

	良いところ		改善すべき点
住民の魅力	住民がアットホーム	交通の課題	道幅が狭い(車が通れない)(2)
	人が優しい(2)		見通しが悪い(カーブミラーが欲しい)
	仲がよい		坂道が多い(2)
	温かい	生活者の課題	交通の便が悪い
	親しみ深い		店が少ない
	住民が元気		自動販売機が少ない(どこで買っているのか)
	地域住民のつながりが強い		若者が少ない(2)
若者を歓迎してくれる	若者を呼び込む仕掛け	若者が集まれる場所がない	
若者を歓迎してくれる		若者向けのイベントを増やす	
町並みの魅力	町並みがきれい(2)	PR・情報発信	高齢者の増加
	町並みに清潔感が行き届いている		看板が欲しい(標識)
	町並みが整備されている		もっとアピールすべき(ホームページなどの作成)
町並み以外の魅力	伝統が残っている(ポスト、建物など)	PR・情報発信	町の良さを宣伝する機会を増やす(ネット・広告・SNSでの情報発信)
	風景がよい		
人を引きつける仕掛け	自然が豊か(3)		
	インスタ映えスポットが多い		
	おいしい食べ物がいっぱいある(2)		
	イベントが多い		

学生による石州街道出口地区に対する印象



学生の学びの自己評価グラフ

受賞を契機に新たに取り組んでいること

1. 銀の道にちなんだ広域連携活動

2011年の「銀の道フェスティバル・飛脚プロジェクト」の開催前から続いている広域連携活動で、本年度も「銀の道」ウォークを行いました。三次市から府中市の出口地区まで多くの方に参加していただき、数日に分けて、徒歩で銀の道をたどりましました。協議会ではイベント前に草刈りなども行いました。引き続き、広く、多くの方に知っていただくために、広域連携活動を進めました。

自治体が協働して“日本遺産”(文化庁)を目指して活動を行っており、協議会においてもその活動を支援しています。

2. 空き家の活用に向けた歴史的建造物の見直しと空き家の活用

1) 歴史的建造物の見直し調査

石州街道出口地区ではこれまで歴史的な町並みが残り、修景事業が進められましたが、歴史的建造物の内部の調査は行われてきませんでした。そこで、空き家活用が検討されている歴史的建造物の建築調査を行い、改めて出口地区の町並みの価値を見出し、活用方法に活かしていきたいと考えました。

昨年度実施した物件の追加調査を行いました。これらのデータは、府中市教育委員会にも提出し、今後の活用に活かしていきます。

さらに、歴史的建造物を維持し、また修景事業を継続していくために、出口地区に適用可能な事業や制度について、今後は勉強会を開いて検討を行っていくことになりました。



2) 空き家の活用と防災対策

現在、石州街道出口地区では空き家が出ると若い世代の方々が移住してきます。移住者は近隣の空き店舗等を活用して商売を始める若者です。昨年度はこうした空き家の活用状況について把握しましたが、今年度は住民の発案による災害時の一時避難場所としての活

用を検討しました。

出口地区には多くのひとり暮らしの高齢者がいます。昨年7月の豪雨では上流の山肌が崩れ、地区の西側を流れる出口川の水位は上昇し、多くの土砂が流れてきました。地区には被害はありませんでしたが、避難指示が頻出しました。そのため、町内会の役割として、地区に住む高齢者を最寄りの小学校体育館まで何度も運びました。支援する側、される側の双方から、こうした活動を持続していくには負担が大きい、また避難指示が出るまでも不安な夜をすごすこともあるといいます。そこで、高齢住民にとっては大雨のときなど自分の足で行けて、誰かと一緒に安心して過ごせる場、そして支援する住民にとっては集まってきた高齢者を一度に避難場所に送迎できる仕組みづくりが必要ということになりました。つまり、災害時に地区内で一時的に避難できる場所を、空き家を活用して作ることで、早速取り掛かり、現在空き家の1階を活用する整備を進めています。

3. 活動の軌跡を残し、今後の活動を展望する

1) 活動年表および活動誌の作成

出口地区は2001年から活動を始め、2004年から2013年までの10年間は街なみ環境整備事業を行ってきました。その後も活動が続き、2019年2月現在で18年の活動を行ってきたこととなります。そこで、活動をまとめ、振り返り、今後の展望について話し合うワークショップを開催しました。協議会の会員と地元大学教員、そしてNPO法人のスタッフらでこれまでの活動について振り返り、活動継続の秘訣について考えました。

➤ 年表づくりとその展示

今年度は年表のデータ作りを行いました。今後は写真等を配置して展示できるよう、年表絵巻を作成していきます。

➤ 活動誌の製作

18年の活動を振り返り、活動の歴史を著した報告書「活動誌」を製作していきます。年表と併せて、活動20年の記念事業として2021年の完成を目指してまとめていきます。

➤ 活動の課題

協議会の活動は、イベントを行うことでコミュニケーションを図る、誰もが役割を以て活躍することを念頭に置いて、高齢になっても祭り運営の役割を担い、顔を合わせて活動を行ってきました。そのため、これまで人材不足や高齢化などで困ることはありませんでした。しかし、現役員が高齢化する今後については、活動内容の検討を行っていく必要があります。また、防火対策のために始めた活動でしたが、現在は水害の対応も検討していきます。

調査検討費の用途

- 景観保全や交流事業にかかる費用
 - ・ ひな祭り・月見の会・七夕まつりでの事業運営
 - ・ 夏休み子ども寺子屋事業の交通費や講師料
 - ・ 桜まつりでの保険料・交通整理の警備費・衣装レンタル料等
 - ・ ライトアップの資材費
- 広域連携活動に関する費用
 - ・ 打ち合わせやイベントに関する交通費
- 歴史的建造物の見直しや活動の振り返り調査にかかる費用
 - ・ 調査協力者の旅費
 - ・ 歴史的価値、活動の振り返りについての専門的知識の提供
 - ・ 図面作成・データ入力作業

近い将来取り組まなければならない課題

1. 景観保全の持続のために必要な方策の検討

石州街道出口地区まちづくり協議会では、街なみ環境整備事業の終了後、修景基準を継続していくことが合意されました。ここ数年の外観の改修では協議会への相談があり、進められてきました。しかし、今後は住民の世代交代が進み、また空き家も増加していることから、修景基準について十分に理解されていない建物の所有者が増加していくと考えられます。今後は、そうした所有者の方々にも、修景基準や協議会の活動について理解をしていただけるよう、説明をしていく必要があると考えます。

また、歴史的な建築物の建築調査を進め、外観だけでなく、建物全体の歴史的な価値についての評価を行い、住民に広く周知を図っていくことも大切です。その建物を残していく方策についても検討を進めていきます。今後は勉強会を行い、可能性を探っていきます。

2. 石州街道出口地区での活動を他の地域に広げていく：地域間連携

石州街道出口地区での活動は2001年から始まり、今年で18年を数えます。様々な活動を行ってきました。今後は府中市の他の地区にも広げていくことが、地域全体の魅力向上につながっていくと考えています。特に歴史的な町並みが残る上下地区では協議会を立ち上げ、町並み保全に向けての活動を始めたところです。石州街道出口地区で培ったノウハウを伝授し、互いのまちづくりの情報交換を行っていきます。

また、「銀の道」をキーワードに、銀の道沿道になる石見銀山の島根県をはじめ、広島県三次市、尾道市、福山市鞆地区、そして岡山県笠岡市などと広域的に連携し、活動を広げていくことが大切だと考えています。“日本遺産”を目指した活動を推進していきます。

さらに、大学生から意見にもあるように、インターネットを活用した情報発信も検討課題として勉強を重ねていきます。

3. 地区の様々な課題取り組む

これまで協議会では世代交代がうまく進み、人材不足に悩むことはありませんでした。しかし今後を見すえて、協議会の後継者育成及び高齢化を取り巻く様々な問題に取り組んでいきます。

今後取り組む課題として、高齢者独居世帯の増加に伴う高齢者の見守り、空き家の発生による若者の移住促進(これまでも実施してきたことをさらに促進)、災害時の対応(防火から始まった協議会の活動を豪雨などによる水害にも対応)、町内会組織の弱体化(顔の見える活動の継続)など協議会の活動を超えて様々な課題に目を向け、地元組織と連携して、課題解決に向け取り組んでいく必要があります。